

## シグマ研究委員会崩壊熱評価W.G. ,サブ・グループ会合

日 時 昭和54年3月14日 13:30-18:00

15日 9:30-18:00

16日 9:30-17:00

場 所 原研・東海研究所 研究2棟 304号室

出席者 山本 徹(東北大), 松本純一郎(原研), 中嶋 龍三(法政大)

欠席者 村田 徹(NAIG), 吉田 正(NAIG)

### 議 事

#### 1. 来年度計画

運営委員会に提出した来年度計画を了承したが、53年度予定のPROFPによる計算が終了しそうもないので、今回できできるだけ計算を進め、54年夏までに計算を終了する。

#### 2. PROFPコードを使った計算について

i) PROFPコード自体は、ほぼ完全に近い形で整備された。もし手を加えたとすれば、output形式の点だけであって、これは、D-CHAINやORIGENの熱計算に便利にするだけである。

ii) PROFPコードをフルに利用するためには、データ収集の点で次のような問題点が残されている。すなわち、

a) ガンマ線相対強度を絶対強度に変換する係数の誤差が評価されていない。

b) ベータ・プラスと電子捕獲との割合を、理論値を基礎にして求める必要がある。

c) 内部転換電子の強度を求めるために、内部転換係数を求める必要のある場合が多い。

iii) 討論の結果、第1次版についてはii)の問題について次のように計算し、より完全な計算は第2次版にもちこすことにした。

- a) 変換係数の誤差については、実験者あるいはN D Sが与えているものを使い、それ以外のものは10%とする。
- b) ベータ・プラスについては、今回は、実験者が与えていない場合にはスキップする。
- c) 内部転換係数については、アイソメリック遷移だけに重点をしばって、その他の場合には特別の考慮をしない。
- iv) ただし、54年夏までの間に、上記の問題点については鋭意修正を加え、間に合ったものについては計算に取入れることにする。

以上の方針にしたがって、次のように集中作業を行った。

- i) PROFP による計算 (A = 66 より開始)
- ii) インプット・データの不備補強、とくにアイソメリック遷移の場合の入力データ追加
- iii) 崩壊系列樹のデータ記入